

クリ栽培の省力化に適したわい性台木品種の選定と二重接ぎ苗木の早期育成法

【背景・目的・成果】

本県のクリの主要品種である「銀寄」は、強樹勢のため、樹高が高くなりやすく、新規栽培者の増加や高齢化が進む中、より省力的で平易な栽培技術が求められています。

そこで当センターでは、わい化に有効な中間台木品種の選定と合わせて、二重接ぎ苗の早期育成法を開発しました。

1 わい化に有効な台木品種の選定

「七立」を中間台木(台木長20cm)として作成した「銀寄」の苗木は、接ぎ木4年目で慣行苗と比べ、穂木基部径が約60%、総新梢伸長量が約30%になりました(表)。樹冠占有面積や1㎡あたりの着穂数は慣行苗と同程度で、台木や穂木との接ぎ木親和性もあり、栽培上の問題はありませんでした。



七立中間台「銀寄」

2 中間台木を利用した二重接ぎ苗の早期育成法〔作業手順〕

(1) 中間台木・穂木品種の休眠枝を採取する。

〈1月下旬～2月上旬〉



(2) 中間台木品種(20cm)へ穂木品種(1芽・約3cm)を切り接ぎし、「接ぎ穂」を作成する。〈3月中下旬〉
作成した「接ぎ穂」はパラフィンワックス(融点59℃)で覆い、冷蔵保存(0～2℃)する。



接ぎ穂の作成

(3) 「接ぎ穂」の基部を数ミリ切り取って、接ぎ木する1日前から、水揚げ(24時間・室温)させる。



パラフィンワックス封入

(4) 地植えしたニホングリ台木(地上30cm)へ「接ぎ穂」を切り接ぎする(一挙二重接ぎ法)。〈4月上中旬〉



地植え台木に接ぎ木(一挙二重接ぎ法)

(5) 接ぎ木後に発生する台芽はすべて除去し、穂木品種の芽を1本、まっすぐ育成する。〈5月～11月〉



図 当年育成した「七立」中間台「銀寄」苗木(二重接ぎ苗)

表 中間台木品種の違いが「銀寄」の樹体生育に及ぼす影響(2020年度)

中間台木品種	幹周(穂木部)(cm)	総新梢伸長(cm)	樹高(m)
七立	8.1	384	1.5
相生	11.4	1284	1.9
枝垂れ辰野1	11.4	857	1.8
無	13.2	1283	1.9

注)「七立」「相生」「枝垂れ辰野1」を中間台木として「銀寄」を穂木品種として接ぎ木(2017年4月)した苗木(接ぎ木後、4シーズン目)を試験に用いた。

【技術の活用】

本技術を用いて作成した二重接ぎ苗は、既存のせん定技術(低樹高栽培[兵庫方式])を用いて、強勢品種の樹勢を中庸に保つことが可能です。クリの強勢品種を導入する際に有効です。

